

平成27年度予算見積調書

課室名：みどり自然課
 担当名：自然ふれあい・砂利対策担当
 内線：3039 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B71	里山・平地林保全イニシアチブ事業費			一般会計	総務費	環境費	自然保護対策費	自然公園等施設整備費	
事業期間	平成24年度～平成27年度	根拠法令				戦略項目	10	みどりと川の再生	
						分野施策	040104	生物多様性保全の推進	
<p>1 事業の概要</p> <p>土地所有者や県のみでは、さいたま緑の森博物館の樹林地の維持管理は、困難な状況である。里山の自然環境は県民の受益となっていることから、社会的な資産と位置づけて、狭山丘陵の里山を保全していくため、県民参加による里山保全体制を構築する。</p> <p>このため、県民、NPO、企業、大学などのネットワーク化を進め、都市部において、貴重な自然環境を有するさいたま緑の森博物館を里山再生のシンボルプロジェクトエリアに位置づけ、里山の保全と活用に取り組む。</p> <p>(1)里山・平地林保全活動システム化事業 1,964千円 (2)里山・平地林保全活動支援事業 2,945千円</p>				<p>5 事業説明</p> <p>(1)事業内容</p> <p>ア 里山・平地林保全活動システム化事業 1,964千円 県民参加による里山保全体制を構築するため、さいたま緑の森博物館保全活用協議会を年3回程度開催するとともに、活動地と保全活動団体のマッチング調整を行う。(4月～3月) 自然の豊かさや「里山の楽しさ」を実感してもらい、保全活動への参加のきっかけとなる取組を協議会で実施する。 保全作業技術を習得してもらうための技術講習会を開催する(5月～2月)。 平成24年度に編集する保全活用マニュアルに活動事例集を追加し、県内のどの里山にも通用するマニュアルとして内容を充実させるとともに、保全活用マニュアルに基づく保全活用ノウハウを県民に提供し、雑木林の保全活用に関わるマンパワーを拡大していく。(4月～3月)</p> <p>イ 里山・平地林保全活動支援事業 2,945千円 保全活動に参加している団体が継続して活動できるよう物置を設置するとともに、必要資材を購入する。</p> <p>(2)事業計画</p> <p>ア 保全面積 3ha(平成26年度末) 4ha(平成27年度末) 自然環境への影響に留意し、少しずつ保全地を拡大</p> <p>イ 活動人数 100人(平成26年度末) 200人(平成27年度末)</p> <p>(3)事業効果 県で下草刈りなどの業務を業者へ発注した場合のコストは600千円/ha コスト削減効果：10ha×600千円/ha=6,000千円(平成27年度末)</p> <p>(4)県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 地元所沢市・入間市はもとより、県民や企業など、地域社会の多様な主体の参加と連携により、さいたま緑の森博物館の保全と活用に取り組んでいくため、意見交換・協議の場として、さいたま緑の森博物館保全活用協議会を平成24年9月2日に設置。</p>					
<p>2 事業主体及び負担区分</p> <p>県(10/10)</p>									
<p>3 地方財政措置の状況</p> <p>なし</p>									
<p>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員</p> <p>9,500千円×0.7人=6,650千円</p>									
財 源 内 訳									
予算額		繰入金						一般財源	前年との対比
決定額	4,909	4,909							2,909
前年額	2,000	2,000							